一般情勢報告

—昭和七年九月結成大會より昭和八年九月まで—

我等が日本勞働組合會議を結成して玆に一ケ年、玆に第二回年度大會の一般情勢報告をなすに際し、我等はまづ、勞働運動と絶對的相關々係にある世界資本主義並にその一環たる日本資本主義の過去一ケ年の情勢に就て語らなければならない。

一九二九年末に於ける相對的安定の破綻を契機として、以來一路衰退の歩道をたどる世界資本主義は、インフレーション政策と並行する産業合理化、生産制限、勞働强化、スピードアップ等の僞瞞的姑息手段により、目前に迫る沒落を回避すべく、未曾有の苦悶とアガキを續けて來たのである。

しかしながら、資本主義機構の奥深く内藏する諸矛盾は、かくの如き消極的乃至姑息的手段によつて除去し得るものではないみよ、全世界のブルジョアジーの必死的努力にもかゝはらず、世界資本主義の本質的矛盾たる生産と消費との不一致と不調和は愈々增大し、ために世界資本主義は益々萎縮と衰退を餘儀なくされたではないか。

例へば、之を全世界の生産指數に就てみるとき、一九二八年を一〇〇として昨年度に於ては僅かに六七、乃至六八てふ驚くべき激減を示し、今年上半期に於ても引續き縮減の傾向を示してゐる。

就中、かつて永久的繁榮さへも傳へられた世界資本主義の王座アメリカ合衆國が、一九三二年度に於て三割五分てふ惡るべき